

独立行政法人国立病院機構

松江医療センター
呼吸器病センター
 〒690-8556
 松江市上乃木5丁目8-31
 TEL (0852) 21-6131 FAX (0852) 27-1019
 URL <http://www.hosp.go.jp/~matsue/>
 発行責任者
 院長 徳島 武
 編集者
 事務部長 亀崎 卓夫



ホーランエンヤ

松江城山稲荷神社式年神幸祭の通称。12年に1度行われ、厳島神社の管弦祭、大阪天満宮の天神祭と並ぶ「日本三大船神事」のひとつ。「ホーランエンヤ」とは權伝馬船上で交わされるかけ声に由来すると云われている。

もくじ

新病棟完成を前に、第二期中期計画がスタート …… 2～3	「肺がんサロンつどい」2周年記念コンサート …… 8
第2回松江呼吸器病理研究会のご報告 …… 3	3学会合同呼吸療法認定士 …… 8
医療教育研修室から（医療教育研修室発足に寄せて） …… 4	読売新聞掲載記事 …… 9
新人医師紹介 …… 5	しじみ会（新春号・二月立春号・三月雛祭り号） …… 10
平成20年度医療安全管理研修会～各部署における 医療安全への取り組み発表会～ …… 6	えきしびじょん …… 10
国立病院機構のネットワークを利用した治験実施について …… 7	松江医療センターの元気宣言！ …… 11
永年勤続表彰 …… 7	外来診療表 …… 12

基本理念

私たちは 真心と 思いやり をもって良質な医療を提供します



新病棟完成を前に、第二期中期計画がスタート

院長 **とくしま** **たけし** **武**

松江では例年より約1週間早く桜が満開となり、病院内の桜も一斉に咲き始めました。4月1日には多くの新任者や転任者を迎え、職員の皆さんはどのような気持ちで新年度を迎えられましたか？いよいよ第二期中期計画がスタートしました。

今年度は当院にとってまさに「飛躍の年」になります。まず4月1日付で病院名称を変更しました。「国立病院機構松江病院」から「国立病院機構松江医療センター」になりました。それに伴い病院の「理念と基本方針」も5年ぶりに変えました。病院名の変更については、新病棟完成を前に、従来の療養所という古いイメージを払拭し、今年を医療センターとしての「新しいスタート」としたい気持ちからです。理念と基本方針の変更も同様の理由です。新しい当院の理念は、「私たちは、真心と思いやりをもって、良質な医療を提供します」と致しました。まったく一般的な言葉ですが、職員の誰もが覚えやすく、いつでも口ずさむことができる、親しみやすい理念としました。

そして7月下旬には念願の新病棟が完成します。現在の建物は当院が統合した昭和46年頃に建った病棟が多いので、狭隘なうえ老朽化し、入院患者さんをはじめ、皆さんに大変不自由をお掛けしておりました。また工事期間中のこの1年間、仮住まいの一般病棟でもご迷惑をお掛けしましたが、もう少しの辛抱です。ここ数年の患者さん満足度調査のアンケート結果では、当院に対する不満な点の多くが、これら建物や病室に関する事柄でした。新病棟が建てば、入院患者さんのアメニティーは格段に良くなり、不満な点も改善されると確信しています。また私たち働く職員の仕事や気持ちも一新されます。建築工事の方も計画通り順調に進行しており、4月現在で予定の5階建ての3階部分まで完成しました。桜の木々の向こうに、次第に空高く伸びていく建物を下から眺めていると、この新病棟で働く喜びがふつふつと湧いてくるようです。

さて平成16年の独法化以降5年間の第一期中期計画は終了しました。145の病院から成る独立行政法人国立病院機構は、なんと106の独法化事業体の中では、ダントツで最高の評価を得ました。これは昨今の厳しい我が国の医療情勢の中であって、驚異的なことであると言われています。そしてその中で当院：松江医療センターも着実に5年間続けて黒字経営を維持することができました。「地域医療の崩壊」が叫ばれている山陰地方において、これを達成できたことは非常に評価できる事です。これも本部・ブロックの適切な指示と病院職員の素早い取り組み、皆さんの日々の努力のおかげであると思っています。

そして第二期中期計画がスタートしました。これからは建替の償還計画に従った計画になりますが、次の5年間に於いて予定する大きな事業は、管理棟・サービス棟・外来

棟をまとめた新しい病院の竣工計画です。そして電子カルテの導入やCT・MRIなどの医療機器の更新・整備があげられます。しかしそれには多額の自己資金が必要であり、今後も一層の着実な経営状況を堅持していくことが必須です。

激しく変わる昨今の医療情勢にあっては、半年先の状況を読むのもなかなか難しいことです。しかしそういう時こそ、地域医療に果たす「松江医療センター」の役割を強くアピールしていくことが重要です。7月下旬には松江テルサで肺癌学会中四国地方会を主催します。教育セミナーでは肺がん診療や禁煙の重要性を強調していきます。また7月末には新病棟のオープン・セレモニーを予定しています。病棟見学会を行い、各病棟や病室を公開し、医療関係者の方々だけでなく、地域住民の方々にも新しい施設や医療内容を知って頂きます。また例年通り、今秋には「肺がんフォーラム」（くにびきメッセ）や「健康フェスタ」（松江サティ）、「医療連携交流会」の開催を予定しております。職員の皆様のご協力をお願いします。

県の保健医療計画の中の、肺がんや呼吸器の救急体制、神経難病など4疾病5事業をはじめ、筋ジス医療、重症心身障害児（者）医療、新型インフルエンザ対策、結核対策など、当院が島根県の中核病院として果たす役割は非常に大きいです。地域の医師会や診療所の先生方、行政や関係機関としっかり連携を取り合って、当院の得意分野の医療を、これまで以上に推進していきたいと考えます。

そこで、今年度の松江医療センターの目標を下記のように立てました。

1. 患者さんの目線に立った、安心できる質の高い、温かい医療・療育を提供すること。
2. 新病棟完成前後において、さらなる収支改善を図り、PL黒字化を果たすこと。
3. 一般病棟の上位看護基準取得要件の平均在院日数（21日以内）を維持すること。



新病棟完成後（イメージ）

4. 職員一人ひとりが幸せで、やりがいを持って働ける病院づくりをめざすこと。

この4月には理学療法士2名、作業療法士2名、言語聴覚士1名を増員し、リハビリ高位基準を取得しました。医師においては麻酔科医長が1名増員になり、手術によっては麻酔加算が取得できます。8月に新病棟になってからは、療養介護サービスを開始しますし、療養環境加算も適用できる見込です。

また今年度新たに医療教育研修室を院内に設置しました。これは医師・コメディカルの教育・研修を全病院的に行っていく部門です。機構内病院にはあまり例がありませんが、良質な医療人材の育成に繋がるもので、若手内科医の室長を中心に積極的に取り組んでおり、臨床研究部と連携し今後の活躍を期待しています。また新病棟5階には緩和ケ

ア病室ができます。それに向けて緩和ケアチームを立ち上げて、各部署が協働しながら肺癌のチーム医療を推進していきます。また医療安全対策委員会やICTチーム、NSTチーム、褥瘡チーム等の充実も図っていきます。昨春より強化した地域医療連携室のおかげで紹介率が40%台から60%台に急速に伸びました。今年度も室長を中心に広報活動を充実し、新病棟での新しい当院の医療・療育を積極的に紹介していきます。

最後に、いま院内は多くの新任の職員を迎え、非常に活気づいています。これが持続するかどうかは各職場の雰囲気です。病院の基本方針にも掲げましたが、われわれは「働きがいのある職場づくり・病院づくり」を目指します。地域の患者さんのみならず、職員や家族にも信頼され愛される病院になるように、職員一丸となって頑張りましょう。皆さんの一層のご理解とご協力をお願いします。

第2回松江呼吸器病理研究会のご報告

呼吸器科医長 ^{きむらまさひろ} 木村雅広

去る2月27日、当院会議室にて「第2回松江呼吸器病理研究会」が開催されました。

週末の夜という時間にもかかわらず、松江赤十字病院、松江赤十字病院、そして当院から医師、コメディカルの方々合わせて約40名の参加をいただきました。

私たちが病気を診断するためには、病歴、生活歴（嗜好、環境）、血液学的検査、レントゲン・CTなどの画像診断等の様々な情報を総合的に判断しなければなりません。

病理診断とは、その情報の中の一つで、病気になった臓器の一部の細胞を顕微鏡で観察し、病気になった原因を探り、臓器にどのような変化を生じているかを明らかにすることです。現在の医療になくしてはならない情報源であり、診断過程でも重要な位置を占めています。

今回の研究会では、前回に引き続き病理診断医の中で全国的にも有名な、国立病院機構岡山医療センターの山鳥一郎先生をコメンテーターにお迎えしました。そして、各種の検査でも病気が特定できず、病理検査にてようやく診断がついた診断困難であった症例が各病院から計3例呈示されました。

喀血が止まらず手術を行った症例、原因不明の間質性肺炎の症例、薬剤性肺炎の症例が呈示さ



岡山医療 山鳥先生の講演

れ、1例毎に問題点、疑問点など活発な討論が行われ、さらに山鳥先生に病理学的診断の決め手となったポイントを解説していただきました。普段聞くことのできない我々臨床医と異なった病理医の目線からのお話は大変勉強になりました。

やはり臨床診断(C)・画像診断(R)、病理学的診断(P)と合わせて最終診断をする事(CRP diagnosis)の重要性が再認識されました。

引き続き山鳥先生による「特発性間質性肺炎の病理」と題する特別講演が行われました。

特発性間質性肺炎は、近年増加傾向にあり、「肺炎」という文字のイメージとは異なり、抗生物質が効かず、原因不明で肺胞の壁に破壊が起こり、徐々に肺の線維化・縮みが進行し、咳・呼吸困難を引き起こしてくる難治性の疾患です。病理診断が疾患の治療法、予後を左右するため、病理医が果たす役割も重大です。病理学の教科書を読んでもなかなか理解が難しい間質性肺炎の病理ですが、山鳥先生のわかりやすいスライドと解説で、聴講者は皆理解が進んだことと思います。

この研究会は昨年より開催され、山陰の呼吸器診療のレベルアップを図っており、内容も大変役立つものとなっております。本年からは年2回開催される予定で、松江以外の地域からの医療関係者の方々の参加も歓迎しておりますので、機会がありましたらどうぞ宜しくお願い致します。



筆者の症例報告



質疑の様子

医療教育研修室から

医療教育研修室発足に寄せて

かど わき とおる
呼吸器科医長 門 脇 徹



「気管支体操」中。(気管支体操とは何が知りたい方は受講した人に聞いてください。)

この4月からスタッフ教育を充実させる部門として医療教育研修室が発足しました。当研修室の目的は「プライマリーケア及び各専門分野の知識・技術の習得のため、医師、医療従事者の生涯教育の場を提供する」ために「当院内において医療連携を図り、組織横断的に活動し、当院全体の医療水準を維持・向上させるための研修会・勉強会について企画・立案し、統括する」というものです。

なぜ今、医療教育研修室を立ち上げる必要があるのか？高名な経営学者のP.F.ドラッカーの言葉を借りたいと思います。『自らを存続させられない組織は失敗である。したがって、明日のマネジメントを担うべき人材を今日準備しておかなければならない。人的資源を更新していかなければならない。確実に高度化していかなければならない。ビジョン、能力、業績において、今日の水準を維持しているだけの組織は、適応能力を失ったというべきである。この世において唯一確実なものが変化である。自らを変革できない組織は、明日の変化の中で生き残ることができない。』私は正にこの言葉に尽きると思うのです。

翻って当院の現状と照らし合わせてみましょう。4月から『松江医療センター』と名称が変わりました。夏には新病棟完成によりハード面が改善します。これらの“変化”に見合ったソフト面の充実、即ちスタッフの知識・技術の更なる向上が求められています。確かにこれまで院内の各部署が様々な勉強会を企画・主催し、数年前からは『みどりの会』という院内呼吸器勉強会が有志によって運営されていました。勿論、これらの勉強会により一定の教育効果はあったと考えます。しかしながら、内容が重複するものもあり、整理が必要です。日進月歩の医療においては、情報のupdateや標準化も極めて重要です。これらの問題を解決するには教育専門の部門が不可欠で、これによりドラッカー

の言う“人的資源の更新・高度化”が図れると私は考えるのです。

今年度の活動内容は以下の4項目です。

- 医療教育研修室の組織化
- 医療教育研修室会議運営
- 旧『みどりの会』の呼吸器疾患勉強会の継続。要望の強い研修等の企画・運営ならびに講義内容の記録・記録媒体の貸出業務
- 次年度以降の計画

呼吸器疾患勉強会は旧『みどりの会』で企画されたものですが、今年度は皆さんへのアンケート結果もふまえ、呼吸療法認定士のテキストにそって行うなど、大きく“変化”しています。ご期待ください！

次年度以降の計画としては更に院内勉強会・研修について各部門と協議しながら順次統括し、呼吸器領域以外のものも企画したいと考えています。また、臨床研究部とも協力して臨床研究への助言・支援も開始し、



研修風景

院外への情報発信（勉強会・研修の主催、将来的には書籍発行も検討中）も行っています。これらの業務は5カ年かけて計画的に推進します。目標は院内だけでなく、院外にも情報発信する“大きな”研修室です。

“夢物語”と思うかもしれませんが。確かに新しい試みであり、仕事量も膨大です。幸い当研修室には高いmotivationを持つ素晴らしいメンバーが揃っていますので、十分に実現可能と私は確信しています。

最後に当研修室のコンセプトを。

『スタッフ教育に関してコーディネーターであり、かつ知識・技術向上のためのプロデューサーであること。』

当研修室はスタッフの皆さんを応援します。ぜひ当研修室をうまく活用してください。よりよい医療を提供できるよう共に歩んでいきましょう！

新 人 医 師 紹 介



消化器科医長

み 原
三 原おさむ
修

皆様、はじめまして。1月1日から採用になりました三原 修です。出身は島根県出雲市(旧 湖陵町)です。1971年に長崎大学医学部を卒業しましたが、当時の日本は胃癌で亡くなる方が非常に沢山おられました。胃癌を克服するため、胃の集団検診が始まり、二重造影法と云う胃のレントゲン診断学が確立され、また胃カメラの開発、実用化がなされたのも丁度この時期でした。消化器医になろうと決心し、愛知県がんセンター病院で約6年半研修しました。以降、静岡県のある県西部浜松医療センター(静岡県は病診連携が全国でも最も早い時期から進んでおり、この時は専ら他院からの紹介患者の診療にあたっていました。)、松江赤十字病院と務め、30数年間消化器病診療に携わってきました。5年前からは第一線を退き療養病院に勤めながら、のんびり趣味を楽しんでいました。この度縁あって当医療センターに勤めることとなりましたが、「あの年取った人は誰?」と思われた方も多かったのではないのでしょうか。さすがに5年間のブランクと年齢の壁は厚く、努力しているつもりですが、いろいろな意味で“浦島太郎”の気分です。忍耐と寛容の気持ちで今後の診療にご協力いただければ喜びます。どうか宜しくお願いいたします。



麻酔科医長

きの 木
下けん
謙

皆さん、こんにちは。この度麻酔科医長に就任した木下謙です。私は昭和24年生まれで、出身は鳥取県の境港。昭和49年に鳥取大学医学部卒業、その後大学院に進むと同時に鳥取大学第二外科(現 器官再生外科)に入学し、昭和57年より済生会境港病院で外科(主に消化器や血管の手術等)と麻酔を担当してきました。

この度、当医療センターの麻酔科標榜医ということとで徳島院長に呼んでいただきました。

新たな気持ちで皆さんと協力して当医療センターのために頑張りたいと思っています。私事ですが、2人の息子は既に巣立ち、現在は出身地の境港で妻と私の両親の4人暮らしです。趣味はクラシック音楽鑑賞、とくにオペラが大好きです。米子や松江で開かれるコンサートにはよく出かけます。それとゴルフを少々たしなみですが、こちらの方は年齢とともにスコアはいけませんね。ともに機会がありましたら一緒に楽しみましょう。よろしくお願いします。



外科医師

たか ぎ ゆう ぞう
高 木 雄 三

はじめまして、平成21年4月1日からお世話になっております高木雄三と申します。平成19年に鳥取大学医学部を卒業し、鳥取大学医学部附属病院にて2年間の初期臨床研修を行いました。研修終了後は胸部外科に入学し、4月から当院に採用していただきました。まだ働き始めて間もないですが、外科の先生方ももちろん、内科の先生方やコメディカルの皆さんにも親切に指導していただき、歴史と伝統のあるこの松江医療センターで外科医としての第一歩を踏み出すことができ大変うれしく光栄に思っております。

私はもともと兵庫県神戸市の出身で山陰には縁もゆかりもありません。都会の病院での研修を希望する医師が増える時勢の中めずらしいとよく言われますが、大学生活と臨床研修の8年間を山陰で過ごし、お世話になった多くの方々への感謝の気持ちと、都会にはない自然風土と人情味にひかれて山陰の地で研鑽を積もうと決意しました。松江は初めてですが、情緒あふれる街並みと美しい景観が印象的で、楽しい生活を送ることができそうです。

まだまだ知識、技術ともに未熟でご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、少しでも早くみなさんのお役に立てるように、そして医師として一人前に成長できるように日々努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

平成20年度 医療安全管理研修会

～～各部署における 医療安全への取り組み発表会～～

医療安全管理室 医療安全管理係長 ^{いし} ^{かわ} ^{かず} ^え 石川和枝

平成20年度の1年間を通して取り組んできたことの発表会を1月28日(水)に17の部署が参加して行いました。そのうち6部署は口述発表で、11部署はポスター掲示発表でした。患者さまが安心して安全に治療が受けられるように、各部署がさまざまな取り組みを実施していることが発表内容からも伝わってきました。人工呼吸器の医療事故を二度と起こさないためには、小さな取り組みであっても積み重ねることが大切で、その取り組みが大きな事故の防止へとつながっていくと考えます。今年はヒヤリハット報告件数も増えており、特に0レベルの未然に防げたヒヤリハットも報告され、職員の医療安全に対する意識も少しずつ高まってきていると感じています。しかし、その反面小さなインシデントが繰り返されることもあり、根本の原因分析(RCA)等を一緒に学びながら改善策を立てていきたいと思っています。

医療安全推進のためには、病棟を中心に他部門の職種の方々と一緒にチーム医療を推進していくことが大切です。そんな中82名の参加があり、盛んに研修会が出来たことを嬉しく思いました。

各部署の取り組みは今年度も続きます。色々な発想を出して紹介していきたいと思います。

口述発表

1. 誤薬防止への取り組み ～看護師による配薬準備時の確認行為の実態～	1病棟
2. 初診患者の情報を共有する ～カードを作成して～	外来
3. 医療安全東5病棟の取り組み ～人工呼吸器・酸素関連のヒヤリハットの減少にむけて～	東5病棟
4. 医療安全確保の為の取り組み ～配膳車の破損防止への取り組み～ ～食中毒防止の取り組み～	栄養科
5. 転倒・転落について ～病棟との連携を中心に～	リハビリテーション科
6. 新病棟の安全対策 ～新病棟に設けることとしている安全対策～	企画課

ポスター発表

1. 安全・適正な外来化学療法を実施するために	薬剤科
2. 輸液管理についての取り組み	6病棟
3. 注入漏れ20%減をめざして	東1病棟
4. 医療安全推進の取り組み	10病棟
5. ヒヤリハット事例の共有	2病棟
6. 患者確認の徹底・手洗いの徹底	研究検査科
7. プール指導における安全対策	療育指導室
8. 画像送信運用	放射線科
9. 中材物品配置表に写真を掲載して	手術室・中材
10. 輸液管理の勉強会を行って	東3病棟
11. 患者個々の危険についての文章化	東2病棟



口述発表



ポスター発表

国立病院機構のネットワークを利用した治験実施について

薬剤科長 小池 恭正

国立病院機構の運営方針には、診療事業：患者さんの目線に立ち、国民に満足される安心で質の高い医療の提供 臨床研究事業：ネットワークを活用した診療の科学的根拠となる臨床研究の実施 教育研修事業：教育研修などを通じた質の高い医療人の育成という3つの柱があります。この中で臨床研究とは臨床で行われるあらゆる研究のことをいいますが、特にその中で医薬品（または医療機器）の承認申請を行うための臨床データを収集する目的でおこなう臨床試験のことを治験と呼んでいます。国立病院機構は全国145の病院の集まりであります。それらをネットワークで結んで、質の高い治験を迅速かつ効率的に推進していくことは国立病院機構の目標のひとつであり、当院でもそのための体制整備等を行っています。

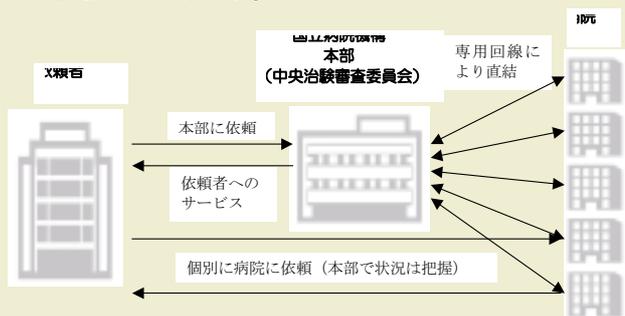
国立病院機構の特徴としては、機構本部内に中央治験支援室を設置し各病院と専用回線により直結することで、治験実施可能施設の迅速な選定、治験に関する情報の共有等ネットワークを生かした治験を実施しております。当院でも中央治験支援室を通じた治験を実施しております。

なお、従来通り、個別に病院が依頼者と直接契約を結んで治験を実施することもできます。

治験を実施するためには、倫理的、科学的な観点より治験の実施の可否について治験審査委員会で審議を行う必要があります。当院も、治験審査委員会を設置しており、治験を行う際はこの委員会にて審議しております。

2008年2月のGCP省令改正を受け、国立病院機構では、「国立病院機構本部中央治験審査委員会（略称：NHO-CRB）」を昨年度設置しました。中央治験審査委員会では、国立病院機構各医療機関から依頼があった治験等について、一括審議を行うことが可能となりました。いままでは、各病院に治験審査委員会を設けて審議を行う必要がありましたが、これにより各病院で治験審査委員会を開催しなくてもいっそう適正かつ効率的な治験が行えるようになりました。審議は国立病院機構本部で行われるため、各医療機関の治験責任医師は専用のインターネット回線を使ったテレビ会議システムにより必要な場合は参加することとなっております。現在、当院でもテレビ会議システム等の整備を行い、NHO-CRBにて審議された治験を実施しております。

これからも、院内の治験実施体制をよりいっそう整備し、新たな取り組みも行って治験を推進していきたいと考えております。



永年勤続表彰

さる4月15日に独立行政法人国立病院機構永年勤続表彰の伝達式が当院会議室に於いて行われました。徳島院長から、表彰を受けた方々にねぎらいと激励の挨拶があり、表彰状と記念品が各人に授与されました。表彰を受けた方々は、次のとおりです。

勤続30年

看護部長 三宅 弘恵
 業績評価係長 池田 孝志
 主任調理師 三浦 弘行
 看護師 瀬田美保子

看護師 仲山美代子
 准看護師 常松美佐江
 保育士 湯浅 恵子

勤続20年

看護師長 松岡 芳江
 庶務班長 栢川 浩之
 副看護師長 土江みづえ

療養介護長 立原 延子
 撮影透視主任 國谷 直希
 看護師 竹谷 和子



「肺がんサロンつどい」2周年記念コンサート

地域医療連携室 副看護師長 **こやま めぐみ 恵**



院長挨拶

当医療センターの「肺がんサロンつどい」は、平成19年3月2日に第1回目が開催され2年が経過いたしました。その間に延べ218人の方に参加をいただいております。今回、肺がんサロンつどい2周年を記念して、鶯の声もちらほら聞こえ始め、少し春めいてきた3月の6日に、鶯の声にも負けないくらい澄んだ音色のオカリナコンサートを、当院外来待合室にて開催いたしました。当日は雨模様とあいにくのお天気でしたが、たくさんの方にお越しいただきました。



コンサート風景

オカリナを演奏してくださった米村篤志さんは、数年前に病気を患われ、そのリハビリを兼ねてオカリナを始められたそうです。当初は右手がうまく動かず苦

労されたそうですが、いまでは病気を患っておられたとは思えないくらい滑らかに指を動かし、演奏されておられました。オカリナのほかにマンドリンの演奏も披露していただきました。



マンドリンの演奏です

曲目は、誰もが口ずさむ童謡の「大きな古時計」から、知る人ぞ知る懐メロの「塙生の宿」など、幅広い選曲で、耳になじんだ曲のときは手拍子が起きたり、大合唱となりました。

参加いただいた患者様からは、「懐かしい歌で思わず涙が出たわ、ありがとう」と声をかけていただきま



ありがとうございました。

した。

笑ったり、大きな声を出すことは自然治癒力を高める上で大事なことだと言われてはいますが、当サロンは、イベント企画がまだ少なく、患者様の療養のお手伝いのためには、まだまだ十分とは言えません。参加して下さる患者様の憩いの場として集えるようなサロンになるよう、少しずつ企画を考えていきたいと思っております。

3学会合同呼吸療法認定士

日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会の3つの学会が合同で認定する「呼吸療法認定士」の資格を第1病棟の清水看護師・藤田看護師が取得しました。呼吸療法についてより深い知識を持った看護師として頑張っておられます。



♪ちょっと散歩♪

春の訪れと共に敷地の木々も草花も元気になってきました。まず、ご根性さくらは今年も健在で、下に種々の草を従えかなりな貴緑を見せています。「坂本庭園」は青写真通りに桜の「ラポール」シオンが良い感じになり、近所にお住まいの方からもお誉めの言葉をいただきました。そして「すずらん」。昨年、不幸な出来事により一旦は絶滅しかかり

たすずらんですが、可憐な花を付けてくれてあります。写真はありませんが、昨年よりクローバーの種を蒔き、雑草類を駆逐してもらおうとしました。ところが他の草木とあちこちで平和に共存しており、更に予想を遙かに超える大きさにまで成長した「コクニ」まで出現する始末逆に草刈りが大変になりました。

誤算、しゃあー



今年のご根性桜



坂本庭園&桜 外来棟を背景に



坂本庭園 全景



すずらん

平成21年3月1日(日)の読売新聞島根版29面に当医療センターの記事が掲載されました。
(主に肺がんについての取材を受け、診療実績等の説明をしました。)

病院の実力

島根編 ①

病院内に医療機関ごとの治療実績を伝える「病院の実力」。今回、取り上げる「肺がん」は、がん種別の死者数で胃がんを抜き、日本人のがん死で最も多い。治療の難しいがんの代表だ。

たばこはがんの原因の一本の成人男性の喫煙率は3分の1を占めると言われ、約40%と欧米に比べて優れているが、肺がんでは特に、予防には、まず禁煙が深いとされる。日産だ。

予防にはまず禁煙

治療には手術療法が重要なことから、肺のエクソス検査や、たばこを減らす喫煙指導による肺がん検診が、40歳以上を対象に行われ、より早期のがんを発見しようと、コンピュータ断層撮影法(CT)を取り入れている人間ドック

夕などもある。表の治療件数(2009年実績)は、「千西」と、そのうち内視鏡を使って治療する「胸腔鏡手術」、ピンポイントでがんを焼く「定位放射線治療」の件数を示した。

また地域域では手術に伴う平均入院期間(手術前の検査含む)も短縮した。手術の技術が高くなり、手術後のケアが少なくなった患者の割合にも影響されるため単独では比較できないが、参考にしてほしい。

日数が短い。アンケートに回答した約400名患者の平均入院日数は14.6日、延長51.7日から最悪5.9日まで、病期により大きな差があった。

都市部に比べ、地方では、入院期間が長くなる傾向が見られた。回復に時間がかかる高齢患者や、他の病気を併発している患者の割合にも影響されるため単独では比較できないが、参考にしてほしい。

は5.5%も増えた。下り手術の割合は、95年の21.9%から、5年後の生存率は81.4%、あきらめず、ぜひ手術を受けていたが、2009年にも増えた。

また転移が進み、手術できない肺がんについても、副作用の少ない新しい抗がん剤を採用するなど、患者さんの負担が軽い治療を心がけている。抗がん剤や放射線治療、手術を組み合わせた「集学的治療」も増えている。

手術は年10件前後だが、早期がんの場合、5年後の生存率は81.4%、あきらめず、ぜひ手術を受けていたが、2009年にも増えた。

また転移が進み、手術できない肺がんについても、副作用の少ない新しい抗がん剤を採用するなど、患者さんの負担が軽い治療を心がけている。抗がん剤や放射線治療、手術を組み合わせた「集学的治療」も増えている。

肺がん

病院の実力「肺がん」
医療機関別2009年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	手術件数 うち内視鏡	平均入院日数	定位放射線治療件数	実効性
国・松江	76	65	10	0
県立中央	43	17	14	0
島根大	29	25	20	1
倉敷中央	176	131	25	5
岡山大	128	71	11.8	0
国・岡山瀬戸七	69	53	7	0
岡山神十	68	57	11.8	0
岡山済生会総合	55	46	15.9	0
島根大	64	72	15	0
県立厚生	45	30	12	0
県立市立	26	0	15	0
県立中央	29	4	17	0
広島大	228	138	8.5	0
広島大	63	55	5	0
広島市立安佐市立	59	25	12	0
山・山口宇部医療セ	187	137	21	0
山口大	58	56	9	32

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター。



国立病院機構松江病院
(松江市上乃木)
徳島武院長 55

胸腔鏡手術 負担軽く

胸腔鏡の新技術で、手術の負担が軽くなる。患者さんにも負担が軽くなる。手術を92年から行っている。胸を10〜20センチ切り開き、術後2、3週間の入院が必要で通常の開胸手術に比べて、3〜5日を短縮するだけで痛みが少なく、1、2週間の入院ですむ。視野が制限され、腫瘍に接近しにくいなど、抗がん剤や放射線治療で腫瘍を小さくし、開胸手術で取り除いた。術後2年たつが、再発はない。集学的治療は体力のある人なら行え、当院では年約10件実施している。

「この記事・写真等は、読売新聞社の許諾を得て転載しています」

しじみ会

新春号・二月立春号・三月雛祭り号

リハビリテーション科 作業療法士 **立** **石** **葉** **子**

- ・菜の花や 早春薫り 花瓶にて
となりの住人 けん一さん
- ・丑年は 子年の不況 も一止めて
やどかりさん 堀内さん
- ・寒風に さらされながら咲く 水仙の群れ
永島さん ヒミコジャパンさん
- ・汚染米 汚れたのは 心かも
「K」さん 山本さん(学生)
- ・道端に 四葉クローバー 押花に
岡さん 松浦さん
- ・小春日に 旬を求めて ふきのとう
トリ・トミーさん 金森さん
- ・クリスマス にわか教徒に 盛りあがる
京の静さん エバディーンさん
- ・「だんだん」で しんじ湖しじみ 全国区
白イルカさん
- ・故郷の 到着ロビーに 春の風 けん一さん
- ・苦しみの 中から咲いた その笑顔 堀内さん
- ・春一番 不況を飛ばす 期待して ヒミコジャパンさん
- ・初夢は 希望に満ちた 夢を見る 山本さん(学生)
- ・ふるさとの 風に色あり 軒大根 松浦さん
- ・水仙の 甘い香りに 春想う 金森さん
- ・もうすぐだ 冬が終われば 春がくる エバディーンさん

えきしびしよん

《水木賞 (妖怪川柳大賞)》

・鬼太郎を 親子三代 見て育つ
(鬼太郎大好き)

《境港商工会議所会頭賞》

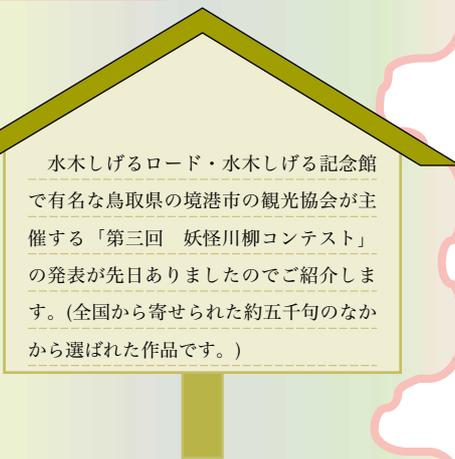
・君さとり? 好きなところを 見透かされ
(1) (15の春)

《境港市観光協会会長賞》

・朝寝坊 いそがし一緒に 大慌て
(2) (早寝早起)

《入選》

- ・ねずみ男 兄弟岩と 隠岐で会う (隠岐汽船)
- ・行間を ^{さとり} 覚となって 読む手紙 (カニコ)
- ・姑と 優しさごっこ 化け上手 (小野寺いし)
- ・十年で ⁽¹⁾ 嫁は寝ふとり オレ河童 (皿リーマン)
- ・給付金 予算ピッタリ 境行き (旅上手)
- ・救え日本 めだまおやじの 知恵袋 (熱き心)
- ・^{かなだま} 金霊に ふられふられて 年の暮れ (鞍馬天狗の弟子)



(1) さとり・・・人間に似た姿を持ち、山中に棲む妖怪。人の考えていることを瞬時に全て読みとり、それを喋るといふ。
 (2) いそがし・・・人に憑依し、その人を落ち着きなく動き回らせるという妖怪。
 (3) 金霊 (かなだま)・・・人家を訪れ、その家を栄えさせると云われている精霊。

●●●●● 松江医療センターの元気宣言！ ●●●●●

看護学生呼吸器体験学習を開催して

看護部長 **み やけ ひろ え**
三 宅 弘 恵



こんな感じで始まりました

松江医療センターを看護学生の皆さんにPRする目的で、看護学生の皆さんが春休み中の3月10日と24日の2回に分け、看護学生呼吸器体験学習を開催しました。島根・鳥取両県内の大学、短大、看護学校に案内を送付、また直接学校の先生方にも学生さんの参加をお願いしました。参加者は、鳥取県の大学・看護学校



呼吸リハビリの実演

3校から14名、鳥根県の大学・短大・看護学校3校から9名、合計23名となりました。

楽しく、面白く呼吸器を学び体験することを目標に企画し、体験学習はまず塩分制限の病院食の試食からスタートです。塩分制限の食事ですが美味しいと好評でした。次にリ

ハビリ室で呼吸器疾患の方の自覚症状の疑似体験として、ストロークで呼吸しながらの階段昇降をやってもらいました。「呼吸



血液中の酸素の量を調べています



マスク式の体験①

器疾患の方はこんなにしんどいんだ」とリアルに感じられたようでした。その他、肺活量・湖の最大流量の測定、

理学療法士による呼吸理学療法の体験等を行いました。

その後は呼吸器内科の門脇先生による講義を聞いてもらいました。肺・気管支の解剖（組織・構造のこと）、人工呼吸管理等のやや難しい内容でしたが、楽しい講義で分かり

やすく、呼吸器に興味を持たされたのご意見もいただきました。気管支体操も初めての



マスク式の体験②

体験でしたが、アンコールがあり何回も皆で復習しました。講義の後は臨床工学技士の笠置さんをお願いしてマスク式の人工呼吸器を見せてもらいました。機能、取扱い方法等の説明後、実際に鼻マスクの人工呼吸器を装着してみました。沢山の質問も出て、「内容的に学校で習わない部分があったが、とても分かりやすかった」そうです。

最後に呼吸療法認定看護師の指導で呼吸リラクゼーションを実際に学生同士で行いました。初めての企画で反省点も幾つかありましたが、あっという間に過ぎた半日で、研修後のアンケートでは、「楽しかった」「また参加したい」「わかりやすかった」...と大変に好評であり、ほっといたしました。

今後も他部門のご協力のもと、看護学生の皆さんにどんどん松江医療センターをアピールしていきたいと思えます。



減塩食のサンプル

外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成21年4月1日～

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域
呼吸器内科	日	矢野	小林	木村	門脇	池田	【呼吸器内科】 竹山 博泰 矢野 修一 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 若林 規良 【副院長】呼吸器一般・アレルギー 【統括診療部長】呼吸器一般(肺循環・肺がん・結核他) 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般・アレルギー
	月	若林	若林	竹山	竹山		
循環器内科		石川				石川	【循環器内科】 石川 成範 循環器内科一般
消化器内科		三原				石原	
神経内科			下山		足立		【神経内科】 足立 芳樹 下山 良二 神経内科 神経内科・リハビリテーション
外科		徳島		目次		荒木	
小児科	発達専門外来	久保田(予約)	齋田(予約)	齋田(予約)	久保田(予約)	齋田(予約)	【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 重度心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害
	予防接種		齋田(予約)				
特	肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	【外科】 徳島 武 目次 裕之 荒木 邦夫 高木 雄三 中井 勲 【院長】呼吸器外科・胸腔鏡下手術(肺癌・自然気胸他) 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
	睡眠時無呼吸外来				呼吸器科 担当医(予約)		
殊	喘息アレルギー外来		呼吸器科 担当医(予約)				【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 【小児科】 齋田 泰子 久保田智香
	咳嗽外来			竹山(予約)	竹山(予約)		
外	禁煙外来			竹山(予約)	竹山(予約)		【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 【小児科】 齋田 泰子 久保田智香
	アスベスト外来			竹山(予約)	竹山(予約)		
来	嚔下障害外来		下山(予約)				【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 【小児科】 齋田 泰子 久保田智香
	神経難病外来		下山		足立		
その他	筋ジストロフィー専門外来				下山(予約)		【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 【小児科】 齋田 泰子 久保田智香
	セカンドオピニオン外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	

診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30
自動再来受付 7:30~11:00



独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター
呼吸器病センター
〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号
電話 (0852) 21-6131(代)
医療連携室直通電話 (0852) 24-7671
医療連携室 F A X (0852) 24-7661

小児科発達専門外来	診療日: 毎週月~金曜日 内容と特色: ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけ、などの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
肺がん検診	診療日: 毎週月~金曜日 15:00~16:30 (要予約) 内容と特色: ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,250円(+喀痰検査6,300円税込み)
睡眠時無呼吸外	診療日: 毎週木曜日 14:00~16:00 (要予約) 内容と特色: いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
息切れ外来	診療日: 毎週火曜日 13:00~15:00 (要予約) 内容と特色: 息切れの診断と治療を行います。
喘息アレルギー外来	診療日: 毎週水・木 9:00~12:00 (要予約) (日本アレルギー学会専門医・指導医が担当) 内容と特色: 成人気管支喘息・花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
慢性咳嗽外来	診療日: 毎週水・木 9:00~12:00 (要予約) (咳嗽研究会会員が担当) 内容と特色: 3週間以上長引く、咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。声楽家・アナウンサー・教師など声を重要な手段とされる方の悩み。
禁煙外来	診療日: 毎週水・木 9:00~12:00 (要予約) (日本呼吸器学会専門医・指導医が担当) 内容と特色: 禁煙を志す方の検査、診断と相談に応じます。
アスベスト外来	診療日: 毎週水・木 8:30~11:00 (要予約) (日本呼吸器学会専門医・指導医が担当) 内容と特色: 石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
嚔下障害外来	診療日: 毎週火曜日 8:30~ 嚔下障害外来 (要予約)
神経難病外来	診療日: 毎週火・木 8:30~ 神経難病外来
筋ジストロフィー専門外来	診療日: 毎週木曜日(予約=指導室まで) 8:30~ 内容と特色: 筋ジストロフィー病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院(筋ジストック)も受け付けています。
セカンドオピニオン外来	診療日: 完全予約制 紹介状必要です。 内容と特色: 呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科(筋ジスト)の専門医(医長)が担当致します。